

# 環境教育「まず、今できることから」

## 歴史に学ぶ

発行所：地域環境活性化協議会  
 編集者：代表幹事 高橋賢一  
 連絡先：市民活動支援センター  
 尾張旭市炭川町三丁目5番地7  
 (炭川福祉センター内)  
 TEL0561-51-2878

喜多市には数多くの蔵がある。全固有数の蔵のまじりの中での厳選された素材と7年余を費やして建造された甲斐本家蔵座敷は、第一級の風格をもつ国登録有形文化財です。甲斐本家は代々吉五郎を襲名しています。

幕末に初代吉五郎が酒造りも始め三代目吉五郎が麴製造、製糸工場で財をなし、四代目吉五郎が「インドワカシ」という名の味噌醬油の醸造を営んできました。

口マン漂う  
古き良き時代

# 甲斐本家蔵座敷



喜多市は加納鉾山が開いていた頃は、暑気がよかた味噌、醬油、酒、衣料品その他の農産物など鉾山で必要なお金は、この喜多市から納めたそうである。ようするに鉾山の出現は喜多市にとっては人口数千の町が突然消費地として出現したことを意味する。おいふんと潤たにちがいない。

ラーメンの町「蔵の町」



▲見応えのある甲斐本家蔵座敷。

加納鉾山と前者は経済的増点をもち、後者は文化的増点をもち、わけてきたことか。

この豪華な蔵座敷は、大正六年火四代目吉五郎が新編より棟領宇佐美守四郎を招き共に各地の名家を見て歩き、そのうえで着工したものです。完成まで7年余もの歳月を要し、外壁はすべて黒漆喰で塗りこめられ、この黒漆喰が重厚な風格を漂わせています。

座敷内には、東平深川の木場から、すずりの銘木、節石の檜、紫檜、黒檀、鉄カキなどを駆使して使われております。

